

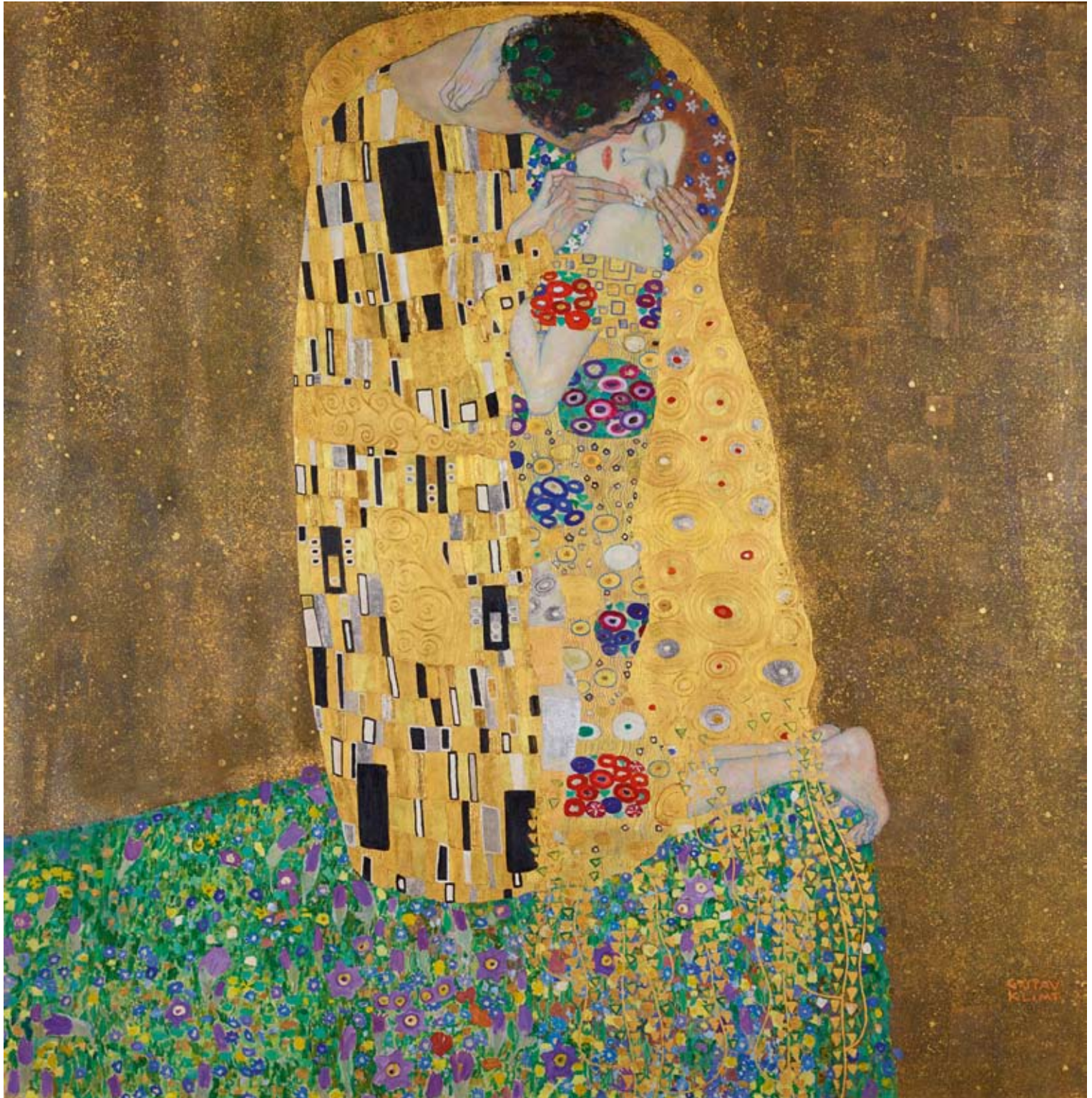
月刊ウィーン

Monatsmagazin Japanisch

現地オリジナル取材と編集で
ウィーンを伝える月刊情報紙

創刊平成元年 創刊31年目 Nr. 369

GEKKAN-WIEN 2020年7&8月号



Gustav Klimt, Liebespaar (Kuss) 1908 (vollendet 1909) © Belvedere, Wien



杉本純の原子力の話 II ウィーンと京都 102

国際原子力機関（IAEA、本部ウィーン）は六月十一日、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的拡大（パンデミック）に際し、

世界各国の原子力産業界ではこれに対処する特別な措置が取られているため、発電所の労働力やサプライチェーン等への影響により停止を強いられた原子力発電所は、今のところ皆無であると発表した。これは、IAEAが運営するCOVID-19 運転経験ネットワーク（OPEX）や「原子力施設事故報告システム」を通じて、各国の原子力発電所運転員や規制当局から得られた情報に基づく。IAEA原子力発電部のDハーゲン部長は「計画されていた定期検査やメンテナンスの日程など、このパンデミックは様々な形で世界中の原子力発電所に影響を及ぼしているが、運転員と規制当局は引き続きこれらの発電所で安全・セキュリティの確保に努めている」とコメント。



<https://www.jaif.or.jp/journal/oversea/3484.html>

な措置を取り完全に準備している点、トラブルに際しても迅速に健全な環境に復帰できるように対応している点を強調した。

さらに、スタッフ数をこれ以上削減した場合の緊急時対応計画、発電所スタッフあるいはその家族の感染時に取られる対応措置についてもIAEAは情報を与えられている。IAEA原子力施設安全部のグリジエット・コフスキー部長は、「今回のようなパンデミックは原子力発電所で安全運転を続ける際に障害となり得るので、発電所の安全性を事業や優先事と統合させる特別な措置を講じなければならぬ」と説明している。

IAEAはこのほか、世界原子力発電事業者協会や経済協力開発機構・原子力機関などの国際機関とも調整し、パンデミック状況下の原子力発電やエネルギー市場動向のデータを分析比較。今回のような事態や将来同様のアウトブレイクが発生した場合でも、原子力発電事業を後押ししたいとしている。

さて、今月のウィーンと京都の対比では、両市を代表する寺院（その三）について述べる。ウィーンで最も重要なパロク建築であるカールス教会は、旧市街の南側カール広場の南端にある。青いドームの両サイドの二本の大円柱が印象的。シエーンブルン宮殿を設計したフィツシャール・フォン・エラツハ親子の作。一七一三年にウィーンを襲ったペスト後に、マリア・テレジアの父カール六世が勅命を出して造らせた。



本の円柱に螺旋状に刻まれ捧げられている。高さ七メートルものドーム屋根の下に広がるのは、重厚な大理石の柱と金の装飾の数々。祭壇には、天使に囲まれた聖ポロメウスが光に導かれる様子が美しく見事に表現されている。天井には、聖ポロメウスを称えたロットマイヤーによる絵画が描かれている。一方、京都の東、音羽山の中腹にある清水寺の開創は七七八年。寺院を建立したのは坂上田村麻呂、十一面千手観世音菩薩を御本尊とし、音羽の瀧の清らかさにちなんで清水寺と名付けた。大きな慈悲を象徴する観音さまの霊場として、古くから庶民に開かれ幅広い層から親しまれてきた。創建以来、十度を超える大火災にあいそのたびに堂宇を焼失したが、篤い信仰によって何度も再建され、現在の伽藍はそのほとんどが一六三三年に再建されたもの。本堂の前面に張り出すように広がる舞台が有名な検校舞臺。京都の街を眼下にする眺めは見事で、その美しい景色は古くから人々を魅了した。崖下の礎石から約一三メートルの高さがある。この舞臺は特別な法会などの際に観音さまに芸能を奉納するための場所となっている。カールス教会も清水寺も威容を誇るが、内部や景色の美しさが観光客に親しまれている。

発表によると、原子力発電所では日々の運転業務の継続やスタッフ間の感染リスク軽減で複数の対策が取られる一方、経済活動の制限にともない電力需要が低下したことから、いくつかの発電所では出力を下げている。メンテナンスのための定期検査は日程の調整を余儀なくされており、検査期間の短縮や規制当局の許可を得た上で重要度の低い作業を延期する例も見受けられている。これと同様に、発電所スタッフの配置数の検討やスタッフ間で距離を置くことも実行されており、日々変化する前代未聞の状況に際して発電所運転員が柔軟

な措置を取り完全に準備している点、トラブルに際しても迅速に健全な環境に復帰できるように対応している点を強調した。

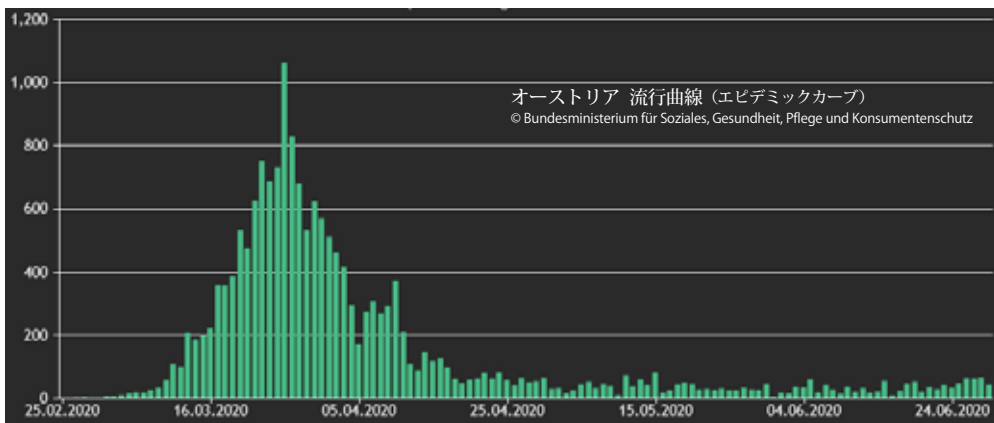
ペスト撃退の守護聖人ポロメウスの生涯が二

■ 杉本純 元京都大学教授 元原子力機構ウィーン事務所長

杉本純の原子力の話 II 「ウィーンと京都」の第1回からの全記事が次のサイトに掲載されています：<http://wattandedison.com/Sugimoto.html>

オーストリアの新型コロナウイルス感染状況 2020年6月30日 22:00 現在

オーストリアでの検査数 61万 2756名、陽性確認 1万 7757（ウィーン 3864 / 住民 10万人につき 204）名、感染者比：男性 49%女性 51%、病状者 583（ウィーン 256）名、感染確認が陽性で入院せず 519名、使用可能な普通病床数 8969 / 使用 58 ベッド、使用可能な集中治療室病床数 722 / 使用 6、届け出のあった死亡 705 / 感染によると確認された死亡 680（ウィーン 196）名、死亡者比男性 56%女性 44%、回復 1万 6478（ウィーン 3446）名 © Bundesministerium für Soziales, Gesundheit, Pflege und Konsumentenschutz



オーストリア 流行曲線 (エビデミックカーブ)
© Bundesministerium für Soziales, Gesundheit, Pflege und Konsumentenschutz

